

太宰府市短歌ポスト第百十期入選歌

(令和三年六月二十六日)

選者 大久保富士子

宝満の頂に立ち復興を祈った父の一周忌来る

福岡市 斎藤真左樹

「飛梅はどきでもドア」と言う君はリモート越しに春の装い

愛知県 斎藤奏

疎の花史跡巡りのはしまりは大町公園憶良の歌碑に

佐賀県 陣内敏夫

梅の香に色づく風よ吹き抜けよふるさとあたらしくさが混ざる街

京都市 雪野菜帆

梅の実を描く娘の手の先に未来を願う父の願いを

福岡市 淵上哲雄

春過ぎてなおコロナ禍は続けれど世界に祈る永遠の幸也

福岡市 船橋耀平